

「子」とは?

2020年 庚子



子は子どもを表しており、一説には万物がしげり生ずるさまとのことです。また、庚は豊かな実りを表しています。
 (諸橋轍次著「大漢和辞典、巻三、巻四」(大修館書店、修訂第二版、1989年刊))



子年生まれの作家

まず明治生まれの文豪から破天荒なこの2人、『父帰る』を書き雑誌「文藝春秋」を創刊した菊池寛、そして菊池寛賞受賞者で『多情仏心』を書いた里見弴が子年生まれです。

作家名	誕生年
菊池寛	1888年
里見弴	1888年



戸川幸夫「牙王物語 上下」
 「王者のとりて」※児童書

作家名	誕生年
戸川幸夫	1912年
新田次郎	1912年

『牙王物語』などで動物文学を確立した戸川幸夫、『強力伝』などで山岳小説を確立した新田次郎、この自然を描いた2巨匠も子年生まれです。

エッセイの名手といわれる吉行淳之介、『砂の女』などを書いた安部公房、『白い巨塔』『沈まぬ太陽』を書いた山崎豊子も子年生まれです。

作家名	誕生年
吉行淳之介	1924年
安部公房	1924年
山崎豊子	1924年



山崎豊子「不毛地帯」
 (全5巻、新潮社)



天童荒太「家族狩り」
 「歓喜の仔 上下」

1960年の子年生まれの作家には、野沢尚、『永遠の子』『家族狩り』の天童荒太、「IWGPシリーズ」の石田衣良、推理小説の乃南アサ、宮部みゆき、「十二国記シリーズ」の小野不由美など、人気作家が数多くいます。

作家名	誕生年
野沢尚	1960年
天童荒太	1960年
石田衣良	1960年
乃南アサ	1960年
宮部みゆき	1960年
小野不由美	1960年

作家名	誕生年
今日泊亜蘭	1912年
ウィリアム・ギブスン	1948年
新井素子	1960年

SF小説

SF作家では、今日泊亜蘭、ウィリアム・ギブスン、新井素子など、SFの転換点になった作家が子年生まれです

作家名	誕生年
島田荘司	1948年
西澤保彦	1960年
綾辻行人	1960年

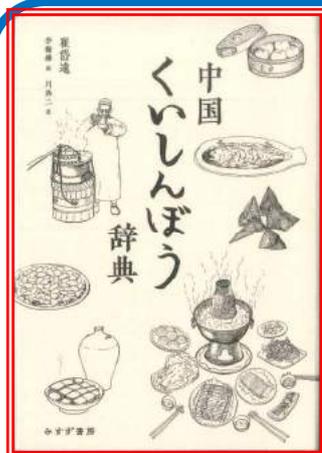
推理小説

推理作家としては、島田荘司、西澤保彦、綾辻行人など、高い評価を得ている作家が子年生まれです。



新井素子「星へ行く船」シリーズ
 (全8巻、出版芸術社)

翻訳されてやって来た本



崔 岱遠(さい・たいえん)/著
川 浩二/訳
『中国くいしんぼう辞典』
(みすず書房)

～ 美味しい学问 ～
おせちの品々に意味があるように、「食」に縁起を担いだり、漢字や音に意味を重ねたりといった中国での食文化が楽しく、そして、見事に美味しそうに綴られています。

家庭料理から宮廷料理まで、短いエッセイの中に料理法や古典から引かれた文章、エピソードなどが詰まっていて、どの章も味わいを感じられる「辞典」です。巻末の訳者あとがきで触れている、作者による「レストランでの注文は一種の学问」というお話まで、存分に味わってください。



この本もおすすめてです！

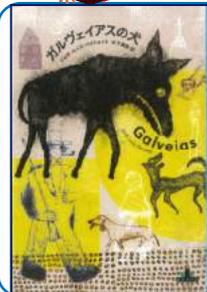


トーン・テレヘン/著
長山さき/訳
『ハリネズミの願い』
(新潮社)

ガブリエル・ガルシア＝マルケス/著
野谷文昭/編訳
『純真なエレンディアと邪悪な祖母の信じがたくも痛ましい物語』
ガルシア＝マルケス中短篇傑作選』
(河出書房新社)



他にこんな本もあります！



物語の始まりは巨大落下物。硫黄の匂いが覆う村での、人々の人生が綴られます。「第五回日本翻訳大賞」を受賞したポルトガルの作品です。
ジョゼ・ルイス・ペイショット/著
木下真穂/訳
『ガルヴェイアスの犬』(新潮社)



『ともだちのしるしだよ』
(岩崎書店)

「いたばし国際絵本翻訳大賞」受賞作品です。アフガニスタン国境の難民キャンプで、少女達の日常から生まれたお話です。

カードラ・モハメッド/作
カレン・リン・ウィリアムズ/作
ダーグ・チャーカ/絵 小林 葵/訳

知って得する！

図書館活用術 vol. 22



☆木の図書館に、【洋書】がやってきました☆

英語をはじめとした外国語で書かれた書物を、【洋書】と呼んでいます。これまで木の図書館では、『マザーグース』を中心とした洋書絵本を所蔵していましたが、この度新たに「伝記」と「文学」の作品が仲間入りしました。
本の背ラベルに【YO】のシールが貼ってあるのが目印ですが、お探しの際はお気軽にスタッフにお尋ねください。

洋書については、木の図書館の所蔵冊数はまだまだ少ないので、ご依頼に合わせて、中央図書館や森の図書館などからの、取り寄せも対応しています。洋書絵本については、こども図書館でもたくさん所蔵しています。英語の他に、中国語や韓国語の絵本もありますよ。資料の検索をする際は、検索項目「分類」に【YO】と入力して検索してみてください。



子どもの木



第8回

紙飛行機競技会

日時：1月25日（土）10時～11時30分

場所：東部公民館 大会議室

人数：小学生25名（保護者がいれば3歳から可）

金額：無料

12月22日（日）10時から

電話、またはカウンターにて受付開始！

優勝を
ねらおう！

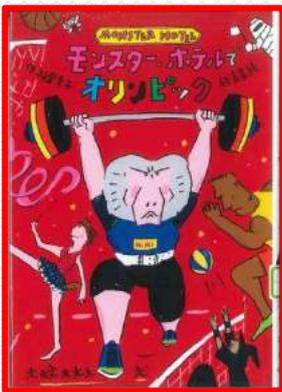


オリンピックについてしよう！



このコーナーも今回で4回目。オリンピックの歴史や競技、国についての本を紹介してきましたが、今回は物語！新しく図書館に入ってきた本です。

ぜひ、読んでみてくださいね。



『Monster・ホテルでオリンピック』
柏葉 幸子/作 高島 純/絵 (小峰書店)

てんぼうだいのちゅうしゃじょうに「オリンピックゆうらい」がでるときたMonster・ホテルのみんな。あいにくことにしますが…。シリーズ最新作です。

『ないしょのオリンピック』
もとした いづみ/ぶん
やまぐち かおり/え (ほるぷ出版)



人間が出かけている間におうちでおもちゃやえんぴつ、はぶらしたちがオリンピックをはじめ…。家中使ったオリンピック。読んでいるとワクワクしてきます。



おはなし会のおしらせ

毎週日曜日11時から、2階おはなしコーナー

（あかちゃんコーナー）でおはなし会をやっています！

あかちゃん向けのおはなし会は、第2日曜日10時30分から
同じ場所でやっています！

みなさんのご参加、おまちしてま〜す！！



これからの木の図書館

連絡先

木の図書館
:電話04-7145-8000

蔵書点検のお知らせ

流山市立図書館では、1月30日～2月14日に蔵書点検を行います。各館で順次実施し、実施中の館は休館日となります。

木の図書館は2/5(水)、2/6(木)が休館日となります。



郷土へのいざない vol. 19

～明治33年ごろ流山で「自転車のブーム」が 流山と自転車 その1～

今も多くの人が愛用する自転車ですが、流山には明治に入ってきたようです。当時は、自転車愛好家の集まりが結成され、貸自転車を扱う自転車店が繁盛していたという話が、「ながれやまのことはじめ」に書かれています。



↑ラントン型自転車
(イメージ)

では、自転車が日本に入ってきたのはいつでしょうか？歴史を見ると、自転車の発祥の地はヨーロッパ。日本には、明治元年（1868年）に入ってきたと思われます。当時発行の雑誌に、東京開市（外国人の自由市場）の開設を祝うパレードでテート&テートン社の「ラントン型」三輪車に外国人が乗り颯爽と走る風刺画が描かれています。その後、このラントン型自転車を模造する日本人がでてきますが、馬車に対抗できず、試験だけで終わります。

現在流通の二輪車のもとになったのは、ミショー型。外国から輸入されたと思われるオリジナルが、東京にある博物館に1台残されていました。それを模倣したと思われる自転車が関東一円の街道筋に数台残っていることから、明治初年から10年代にかけて、日本で作られたと考えられますが、記録が残っていません。



↑ミショー型自転車
(イメージ)

流山には、今から100年以上前の明治33年（1900年）ごろ。自転車のブームが起きました。欧米で自転車ブームが崩壊し、生産過剰で価格が急激に下落したことが要因のようです。

流山市立図書館の開館日は、流山市内の各図書館で配布している「図書館カレンダー」をご覧ください。

木の図書館

休館日 月曜日（祝日の場合は火曜日）

月末日（土日を除く）

蔵書点検日（2/5、6）

開館時間 火曜日～土曜日： 9時30～分19時

日曜日、祝日： 9時30分～17時